

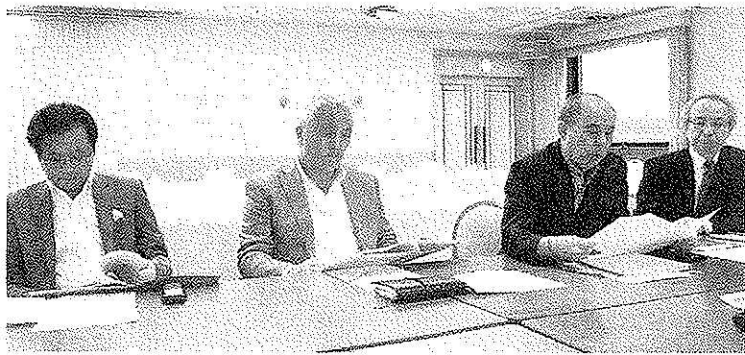
アジア・アパレルものづくりネットワーク
進出工場を成功させよう NPO法人化で事業推進

進出工場を成功させよう

アジア・アパレルものづくりネットワーク

手を取り合って生き残る

NPO法人化で事業推進



18日にNPO法人設立を発表（右から2人目が小島代表理事）

アジアに縫製工場を持つ企業で構成する「アジア・アパレルものづくりネットワーク」(AAP)は、3月30日付で内閣府認証のNPO(非営利組織)法

人となり、アジア各国の状況の正確で素早い情報収集や進出支援など12年度の事業計画をスタートさせた。
チャイナ・フランス・インドへのシフト

トが急速に進み「中国を除いた」アジアでは欧米や韓国、中国との闘いで、日本ははじき飛

ばされかねない。手を取り合って生き残る方法を考える「小島正憲AAP代表理事」小島衣料オナー」ために結成された。昨年7月から任意団体として活動してきたが、公的機関の支援を受けやすいNPO法人とし事業の発展をめざす。

中国に比べてストライキが多く、大きな資金が必要になるアジアで縫製工場を成功させるには、力を合わせてネットワークを築くことが欠かせないという考えだ。現在の会員は、縫製工場やメーカーの正会員が30社、付属品企業などの協力会員が10社の合わせて40社。アパレルメーカーや商社など利害の対立する業種は入会を認めていない。「本音のトーク」を交わす会にするためだ。2カ月に1回開く例会は非公開で、参加は会員のみ。役員は小島代表理事のほか、理事に常川雅通サンテックス社長と岩井一男ロックス社長、理事で事務局長に和田博小島衣料顧問が就いている。

11年度は5回の例会を開き、意見交流やバンクラッシュ繊維業界視察ツアー、経済産業省繊維課課長の講演会などを実施した。ホームページで情報提供し、委託加工型から企画提案型への変化をめざす「ODM(相

手先ブランドによる設計・生産)の会」も開催した。12年度は18日に東京で例会を開催した。6月13日に通常総会を開き、インドネシアのアパレル生産に関する講演を予定している。8月と11月にも交流会を開き、10月にはミャンマーへのアパレル生産視察ツアーを実施する。また、会員例会とは別に、生産地リサーチ・ミッシェンを実施し、7月2〜6日の日程でカンボジア・フノンペンからベトナム・ホーチミンを陸路で移動し、両国の国境周辺の工業団地などを調査する。ODMの会は、委託加工型からの転換をめざすプロジェクトとして、合同展示会を開催する。

AAPの立ち上げの背景には、中国に進出した企業で作るSSC会の存在がある。岐阜のサンテイを中心にしてきた会で、245回の例会を積み重ねている。SSC会にも参加する小島代表理事は「本音で話し合えて具体的なことが分かり実利がある。今後の方向性も分かるユニークな会」だとして、そのアジア版を狙ったのがAAPだ。AAPの会員は中国を含めた7カ国に工場を持っており、生きた情報の交流を進める。また「各地の縫製組合が衰退し、青年部がなくなっている中で、世代交代を迎えた業界のたまの場にした」と(和田事務局長)として、物づくり企業の次世代の経営者育成をめざす。

また「各地の縫製組合が衰退し、青年部がなくなっている中で、世代交代を迎えた業界のたまの場にした」と(和田事務局長)として、物づくり企業の次世代の経営者育成をめざす。